

教 育 方 針	【学校教育目標】「 夢に向かって のびる 杉っ子 」 【目指す子どもの姿】 ○学ぶ意欲を持ち、夢や希望に向かい進んで学ぶ子ども 【確かな学力】 ○命を大切にし、自分も友達も大切にすることも 【豊かな心】 ○健康や体力づくりに自ら取り組む子ども 【健やかな体】 ○ふるさとに誇りを持ち、明日のふるさとをつくる子ども【自己有用感の育成】	重点 目標	○確かな学力の育成 ①基礎基本の定着 ②授業改善 ③読書と家庭学習 ○豊かな心の育成 ①自他の人権や命 ②規範意識・ルール・マナー ③認め合い尊重 ○健やかな体と自己管理能力の育成 ①生活習慣 ②健康作り・体力作り ○地域に根ざした学習の創造 ①ふるさと智頭の地域 ②ふるさと智頭の人々 ③ふるさと智頭のこと ○保小中の連携 ①保小中15年間の連携 ②プロブレム・ギャップの解消と連携 ○地域に開かれた信頼される学校 ①積極的な情報発信 ※「三位一体の取り組み」・・・めざす児童像・めざす学校像・めざす教師像
---------	---	--------------	--

(4：十分に達成できた 3：ほぼ達成できた 2：あまり達成できず 1：ほとんど達成できず)

評価項目	具体項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価基準	自己評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
確かな学力	○書く力・話す聞く力の向上	○大事な言葉を意識して書くことはできるようになってきた。個人差が広がっている。 ○相手を意識した話し方や聞き方が弱い。	○相手・目的・条件に応じて、自分の思いや考えを整理して書いている。 ○はっきりした声で話し、反応（見る・聞く・つぶやく）しながら聞いている。	・苦手意識のある児童を見取り、青ペンで友達のを視写させ、書き方を学ばせる。マス目プリント等を準備し、字数等の条件をつけて書かせる。 ・聞くときは聞くことに集中させ、反応や話に関係するつぶやきを奨励して、青ペンで書く時間を保障する。相手を意識した張りのある「かしこい声」で話すように返事や発表で指導する。	・児童アンケートのノート作り・書くに関する項目の平均達成率が80％以上。 ・児童アンケートの発表・音読、聞くに関する項目の平均達成率が70％以上。	3 2	・87.2％で達成している。国語・道徳を中心に書く意識は高い。しかし、課題となっている書ける児童と書けない児童の差が大きくなっている。青ペンで書くことをキーワード化して示すことができていなかった。 ・75.7％で達成している。児童の意識では達成できているが、「話す」に関しては、しっかりした返事や「かしこい声」が見られない。友達や先生の話や「聴く」になっていない児童が多い。	・マス目プリントを使うことを継続。次年度はマス目ノートにする等、書く条件付けを意識した指導を。ノート賞ノートを保護者の目にふれるようなたより等を作成する。 ・学習をしっかりと声から始めるため、家庭での音読、学校での挨拶、返事に重点を置き、指導する。学習規律（聞ける環境）を見直し、学級で「聞くこと」の目標を立てる。
	○家庭学習の徹底（習得・習熟・自主学习）	○家庭学習時間は向上したが、質（集中・内容）の向上が必要。	○集中して家庭学習に取り組み、音読や自主学習に進んで取り組んでいる。	・全校で1日の宿題を実際にする時間を設け、集中した家庭学習の仕方を指導する。（定期指導）保護者への音読の協力を依頼するとともに、発表の機会を設け、音読を徹底する。	・児童アンケートの家庭学習に関する項目の平均達成率が80％以上。	3	・82.3％で達成している。しかし、ながら勉強やゲーム・インターネット利用時間増による学習時間減少の影響もうかがえる。児童の意識と保護者・教員の認識に差が見られる。	・学級の実態に応じて「宿題ゆあってみよう」を学期ごとに実施する。家庭でのゲーム・インターネットの時間について約束させ、学習に集中できるようにさせる。
	○読書意欲の向上	○図書館の利活用は増えているが、個人差が大きく家庭読書も十分ではない。	○本に親しみ、進んで読書するとともに、本を活用している。	・図書館活用授業を継続するとともに、学校で本を借りる時間を設ける等、読書活動が日常生活に定着するように月末図書統計も活かして働きかける。	・児童アンケートの読書、図書館活用に関する項目の平均達成率が70％以上。	3	・75.9％で達成しているものの、授業での活用、自主的な利用に学級間格差がある。全体として減少している。	・学級で図書館に行く時間を作る。自主的な利用には重点を置かず、まず読書の習慣がつくように働きかける。
豊かな心	○規範意識の向上	○集団生活のきまりを守ろうとする意識が低い。	○集団生活のきまりを守って生活している。	・廊下は右側を歩くように、全職員で声をかける。 ・名札、安全タスキを毎日着用するために、毎朝学級で調べる。 ・掃除の開始時刻を守るために、掃除3分前に放送し、13時35分のチャイムで掃除を始めさせる。	・児童アンケートでの、「廊下は右側を歩く」の項目が8割以上。 ・各学級9割達成。 ・掃除時間には、児童が掃除をしている。	2 3 3	・75％達成。歩く児童は多くなったが、右側歩行の意識が低い。 ・全員名札着用日がなかった。たすきもカバンに入れたままの児童がいた。 ・88％の児童が黙動を意識して掃除している。開始・終了時刻が守れていない。	・右側歩行が意識できるような環境整備や表示をする。 ・学級での呼びかけチェックが欠かせないので今後も徹底して呼びかける。 ・15分間1度もしゃべらず掃除をする体験をする。掃除の開始の放送を続ける。
	○基本的な生活習慣や衛生習慣の定着	○生活習慣、衛生週間の定着が不十分な子どもがいる。	○生活習慣、衛生週間が定着している。	・保小中で連携してノーメディアデー1週間にチャレンジする。 ・健康観察に生活習慣、衛生週間に関する項目を設定し、担任が聞く。	・ノーメディアデーの達成日が増えている。 ・生活習慣、衛生週間調べが、月初めよりも改善する。	3	・メディコンウィークの1回目に比べ2回目は、4項目で達成率が上昇している。ただ、家庭によって取組のないところやカードを提出しないところもある。 ・メディアに触れる時間も数年前に比べ増加傾向にある。	・呼びかけとともに通信等で協力をお願いしていく。
	○良い姿勢の習慣化	○姿勢の保持が難しい。	○良い姿勢を保持して学習できる。	・立腰について、担任が朝の会、学習の始まりと終わりの挨拶の時に声かけをする。	・児童アンケート「授業の初めと終わりの時に立腰ができた」の結果、肯定的な意見が80%。	2	・クラスによって差がある。声かけはしているが改善できないところもある。 ・睡眠時間が十分でない子がどんな過ごし方をしているか。	・学活等の時間を使って、生活習慣や衛生週間の大切さを学習させる。年計の見直しも検討。
健やかな体	○体力の向上	○児童の運動の偏りが見られる。昨年度の新体力テストの結果、柔軟性、握力に課題があった。	○目標に向かって進んで体力作りに取り組む。	・月毎にチャレンジする遊び・運動を設定する。体育委員会の児童を中心に月1回の集会を開く。	・児童アンケート「授業の初めと終わりの時に立腰ができた」の結果、肯定的な意見が80%。 ・児童アンケート「休憩時間に進んで外遊びや体力作りに取り組んでいる」の項目で肯定的な意見が70%以上。	2 3	・児童アンケート肯定的意見7割。姿勢の固持が続かない。意識化させるとともに体づくりも進めていく必要がある。 ・児童アンケートでは8割の肯定的意見があった。外で遊ぶ子は比較的多い方だと思う。体を動かすことを好まない子もある。	・学校と家庭とで取り組んでいくことをめざす。学校保健委員会で本校の課題に沿った講演会を設定する。 ・運動を好まない子も体を動かす場をつくる…体育委員会 ・廊下歩行も継続して呼びかける。
保護者・地域との連携	○保護者・地域との連携による「開かれた・信頼される学校づくり」	○統合7年目を迎え、保護者・地域の智頭小学校への期待もより一層高い。 ○各地区で培われた文化や伝統・歴史を大切にし、更にそれらをより良く継承していく必要がある。	○学校の思いや願いが地域に確実に伝わっている。 ○保護者が学年懇談や教育講演会などに多数出席する。 ○地域の方々、学校支援ボランティアの方々の温かい支援を受けながら地域と関わる行事などを行う。	○本年度も学校便り「満天星」告知端末・まちコミ・ホームページなどを有効活用し、情報を必要に応じて発信する。 ○保護者にとって魅力ある懇談会や講演会を企画・運営する。保護者を巻き込んだ活動を企画する。（育・menの会など） ○地域の方々に呼びかけ、児童の学習に関わる面や学年行事などで、地域の支援を受けながら、児童と地域との関わりをより一層深める。	○アンケートなどで、学校からの情報提供満足度が90％以上。 ○まちコミ登録率100％ ○アンケートで学校便りや学年便りなどを読んでいるという回答が90％以上。また、内容に満足しているが70％以上。 ○懇談会や講演会の出席率が70％以上。 ○行事ごとのアンケートや地域との交流や行事などで、活動に対する肯定的な意見をもらう。	3 3 3 2 3	・肯定的評価は高かったが、ホームページ等の更新の回数は少なかった。 ・100％は達成できなかった。（87.1％） ・月一回の学校便りや随時発行の学年学級便りによる情報提供は、しっかり出来ていた。 ・授業の参観は90パーセントを超えるが、その後の懇談会の参加率は低かった。 ・カリキュラム通りの地域を巻き込んだ学習に取り組めた。	・定期的な更新のために担当を決める。 ・新年度総会にて勧誘する。 ・今のままの取り組みを継続し、さらに、タイムリーな内容を心がけていく。 ・前宣伝等繰り返し、必要感のある内容で構成していく。 ・さらに魅力的な関わりと内容の精選に努め、効果的な交流に努める。